

令和5年度第1回狭山市協働推進協議会会議録

開催日時 令和5年8月8日（火）
午前10時00分から午前11時50分まで

開催場所 中央公民館 第5学習室

出席者 荒木委員、小川委員、後藤委員、齋藤委員、佐藤委員、田口（和）委員、田口（博）委員、西本委員、畑中委員、安永委員、柳澤委員、稲葉委員、井上委員、影山委員、小山委員

市側参加者 市長、市民部長、市民部次長

事務局 自治文化課長、同課主幹、同課主任、同課主事補

公開・非公開の別 公開

傍聴者 なし

1 開会

2 協働推進協議会委員委嘱式

3 委員自己紹介

4 正副会長の選出

委員の互選により、小山会長、後藤副会長を選出

5 議題

(1) 狭山市協働推進協議会について

資料2「狭山市協働によるまちづくり条例」、資料3「狭山市協働推進協議会規則」を参照し、協議会の組織、協議会委員の構成、任期、協議会回数などを事務局が説明。

(2) 協働によるまちづくりについて

資料4「協働によるまちづくり」、資料5「協働によるまちづくりの図」を参照し、狭山市における協働事業について、令和5年度の提案型協働事業を中心に事務局が説明。

〈質疑応答・意見〉

会 長

協働によるまちづくりの12年の経緯を事務局から説明があったが、条例と協議会のありかたについて、何かご意見を。

委員 A

協働によるまちづくりでは、色々な組織が色々な活動をされている印象がある。

支援、交流、チャリティと大きな目標で分けてしまう方がわかりやすいのではないか。

今の課題として、高齢化による担い手不足がある。対策として若手、後継者の人材育成と人材確保になるのかと思うが、社会的流れとして大きな問題である。

人材や予算が不足するのであれば、効率的な運営、目標を統一し、事務所の共通化をすれば経費の削減、業務の効率化等が図れる。自分たちでできなければ部外委託等活用等を考えて

いく方がよいのでは。

会 長

提案型協働事業は、長年においてジャンルなどを限定しないでやってきたが、ジャンルやくくりをした方が、提案しやすいのではないか、とのことであるがどうか。

委員 A

優先順位を考える必要がある。現状の中で優先順位を考えて行った方がよい。テーマを決めて考えていたほうが、横の連携もできるのではないかと考える。

事務局

今まで市民活動団体が地域課題をどう解決していくか考え、市とどのように協働していったほうがよいか自由な考えで提案してもらおう市民提案型事業や行政提案型事業では、市が解決しなければならない課題を具体的なテーマを提示し、市民活動団体から提案のあった事業を行ってきた。

市民の方々が自ら課題解決を行うための自由な提案を行うこの事業そのものについては、このまま残していく必要があるのと考える。

委員 A

今後の進め方として、優先順位等が明確になればより具体的に連携ができるのではないかと考えた提案である。

事務局

この 2 年間の任期の中で、どういった形でテーマ出しした方がいいのか、市としてどういう形で行っていくか、3 回ある協議会の中で検討していただきたいと思っている。

委員 B

資料の 5 にあるように、協働推進協議会と協働推進委員会があり、このすみわけが必要である。意見のあった、テーマを決めて協働事業をすすめる組織は協働推進委員会で、市民提案型、行政提案型協働事業の審査・助言を行う役割があり、この協働推進協議会は、全般的な事項について協議するところで、個々の事業というよりも市と市民が行う協働とは何かという枠組みを検討し、その中から狭山市の今の情勢で必要な事業のモデル的なもの、先導的な事業などを提案していく場であると考えます。

もうひとつ、事業には、資金についても重要であると考えるので、この協議会には金融機関の方も出席されている。資金のアドバイスなど、できるのではないかと思います。

個々の事業について検討するのではなく、協働推進協議会と協働推進委員会の立ち位置、その機能を認識し、自分はどこにいるのかを見極めて行っていった方がよいと思う。

会 長

ご覧いただいている資料 5 は、それぞれの立ち位置と推進していく上で、どことどこが連携

できるかを考えていくうえで参考になる相関図となっている。

協働のまちづくりとは、どのようなまちづくりを推進していくことが市民のためになり、行政、諸団体とどう関係してくか、在り方について考えていくことが必要。

自己紹介から、食と農、子育てしやすいまちづくり、こどもの問題、こども支援という社会的重要なテーマなどが考えられる。コミュニティを活性化するうえで困っている問題を、上手に解決するにはどうしていったらいいかなど、考えていかなければならない。

どのようなまちづくりを推進していくことが狭山として考えられるか、テーマを考えていただければ有意義な意見の交換ができるのではないかと考えている。

協議会についてのあり方や議論の動き方、進め方にご意見をいただければ。

委員 C

1つは、地域課題として何とかしたいということよりも、もっとどのようなまちだと笑顔あふれ、どうあることが住み続けたいまちになるのか、経済的なことや支援があるというのは住みやすいまちにはなるが、どうしたら笑顔あふれるまちになるのかを考える必要がある。今回の提案型協働事業の中にも人が集まって賑わいがある事業があった。そういったことが地域に、たくさん点在していると笑顔があふれるまちに繋がっていくのではないかと思う。事業をやっていく上で、成果指標がどこにおかれているかが必要なのではないかと。

もうひとつ、課題を持っている人や、その課題自体がなにか影響を与えている人と考える人だけが参加するものになっている。

子育て、高齢者、障害をお持ちのかたなど、行政のサービスが必要な方たちが課題解決することも必要であり目を向けるべきであるが、そうでない人たちがつながっていかないとまちという構想にはならない。

課題がある人だけに焦点があたっていて、そのほかの人の参加意欲が促されていないと感じる。課題がある方でない人たちがどんどん参加し、多くの人たちと繋がっていくと笑顔あふれるまちづくりに引っ張っていつてくれるのではないかと考える。

課題解決も必要な事業であるが、参加する側も明るく参加でき、参加率が高いようなものにしていく議論を生み出していければ、他の行政にないカラーを出せるのではないかと。

会 長

条例ができてから、3期目の協議会になる。狭山の協働のまちづくりにカラー付けが大事。条例がめざしているのはつながりづくりである。目的があって、つながりができるもので、相関が持てるようなつながりが生まれるといいのではないかと。

方向性についての考え方、どのようなジャンル、どのように優先順位をつけていくか、どうつながっていくか3期分の協議会の中で協議をしてきたい。

委員 B

狭山市はこれからどのようなイメージで、どのような狭山になってほしいか、バックキャストिंगといった考え方で、今の問題解決ではなく、将来狭山市がこうなってほしいから、今、何かやろうという方法論がよい。

会 長

あくまでも明るい未来のためにどうつながっていくのが目的であって、今の課題解決も必要であるがそれだけでなく、目的にどうつながるかの方向性が必要なのではないかと。課題解決だけでなく、明るい未来につながるように考えていかなければならない。

委員 D

「誰もが住みたい、住み続けたいまちづくり」の実現を、個々のジャンルによって、どのように、狭山市としてなにができるか、狭山市のために何ができるかを、活動している団体が考えて事業を提案している。市民が笑顔につながるために、自分の事業だけでなく、まちをどうするか、まちづくりに市民は何ができるのか、またジャンルの専門的な意見をどう取り入れ、どう協力できるのか、市民と市で考えていくのがまちづくりなのではないか。それぞれのジャンルで課題はあるが、まちづくりと並行して考えていければと思う。

会 長

第1回目の協議会で、今後どのような議論をしていけばいいのかを探る位置づけだったが、内容に入った会議になった。残り3回の協議会で、本日話題になったことを頭に置きながら、条例に基づき、市民の方が参加している協議会で、どういった成果を出せるのか考えながら、参加していただきたい。

今後、必要であれば、ワーキンググループを作って問題を話し合うということのできるメンバーが集まっているので、そういった形でも協議していけると考えられる。

想定される課題を協議会として考えていきたい。

事務局

皆さんからいただいた意見を今後、年明けに第2回の協議会で頂戴するが、それまでにご意見があれば自治文化課までお願いします。また開催の前にご意見を頂戴することになるかもしれないのでその時にはご協力をお願いしたい。

閉会

副委員長

この協議会は、活動の主となる方たちが集まっている。この機会にまちづくりを考えながら次の会議に参加していただきたい。

まちづくりは難しいが、まちのためにというよりも、「狭山市に住みたい、自分たちのまちに住み続けたい」というまちにしていきたいという方向性があるのではないかと思う。

2回目は先になるが、よろしくお願いします。